

講義名	対)公共政策論		
担当教員	西井 和夫		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限	授業形態	講義
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

公共政策は、主として「公的な政策の発案、決定、執行」の活動連鎖を対象とする。したがって政治学や行政学までも含むことになる。しかしそれらはまた固有の学問分野でもあるので、本講義では政治プロセスや行政プロセスという形で扱うことになる。「政策科学」という場合もあるが、その場合はやや「経済政策」的色彩を帯びることになる。できるだけニュートラルな形で公共政策のカバーする領域を画線することとし、前半部では公共政策学の基礎理論を中心に講義し、一方後半部ではプロセスについてできるだけ政策決定および評価の方法論を解説するとともに、公共政策のガバナンス（政策管理システム）に触れる。

到達目標

前半部では、公共政策の捉え方やその基礎知識を学ぶ意義を理解し、また公共政策論の研究領域（政治と行政のインターフェースの領域）の諸モデルや政策科学としての諸理論の展開についても基本的な知識を習得できるようにする。
後半部では、さらにわが国の公共政策の発案—決定—執行および評価といった政策過程（プロセス）について公的規制等の政策評価の方法論の基礎的理解とNPM(New Public Management)への基本的理解までを習得できるようにする。

提出課題

本授業では、講義内容の理解度確認のための課題演習（レポート）を予定しているので、注意されたし。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

基本的には、課題を課した次週にその結果（採点結果）とともに返却し、全体的な出来栄等々の講評ならびに補足解説が必要な場合には解説を行う。また、個別に、受講生の課題に対する復習の参考になるように、課題への取り組みに対する助言や解答に対するコメントを付すことにしている。

評価の基準

平常点50%（講義内での簡単な演習課題への取り組みの評点を含む）、試験（確認テストやそれに代わる課題レポートを含む）50%

履修にあたっての注意・助言他

参考テキストやプリントに従っての連続的な積み上げ授業であるので、欠席は避けること。
定期試験前中の試験はないので注意！

教科書					
.使用しない。					

プリント資料及び参考文献

講義時に配布するプリント

授業計画

- 1 公共政策とは 本講義で何を学ぶか（政策と計画）
- 2 公共政策論の基礎 公共政策とは何か
- 3 アジェンダ設定と問題の構造化（1）
- 4 アジェンダ設定と問題の構造化（2）
- 5 公共政策の手段と規範的判断（1）
- 6 公共政策の手段と規範的判断（2）
- 7 政策決定と合理性
- 8 前半部テスト 前半部の講義の確認
- 9 費用便益分析
- 10 合理的意思決定の限界
- 11 公共政策のガバナンス
- 12 公共政策の評価
- 13 公共政策管理システム : NPM（その1）
- 14 公共政策管理システム : NPM（その2）
- 15 後半部テスト 後半部の講義の確認

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の講義内容への理解に応じて、予習・復習の必要性和その量・程度を各自で判断しなさい。そのために準備学習よりも、毎回の講義をしっかり聴くこと。（講義中にスマホばかり見ている、講義を聴いていない学生には、準備学修などできるわけではない）
なお、本学設置基準では「2単位の講義では、1回の講義について4時間の自己学習が必要」となっていますので、そのことを踏まえ、自身の理解の不足部分について、予習・復習の合計が最大4時間以内になるように判断しなさい。講義内容の理解への不足がないと判断した場合は予習・復習に費やす時間はなし（0分）です。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

シラバスの到達目標を達成することにより、経済学を基盤にして、複雑化する地域社会で生起する問題を読み解き、解決策を提案することができること。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

基本的な講義内容についての質疑応答的な対応はこれまでに実施していて、それ以外のICTの利用の計画はない。

実務経験の有無及び活用

「実務経験」なし

備考